

Market Report

2025年1月号



インドネシアのFFB生産の見通し

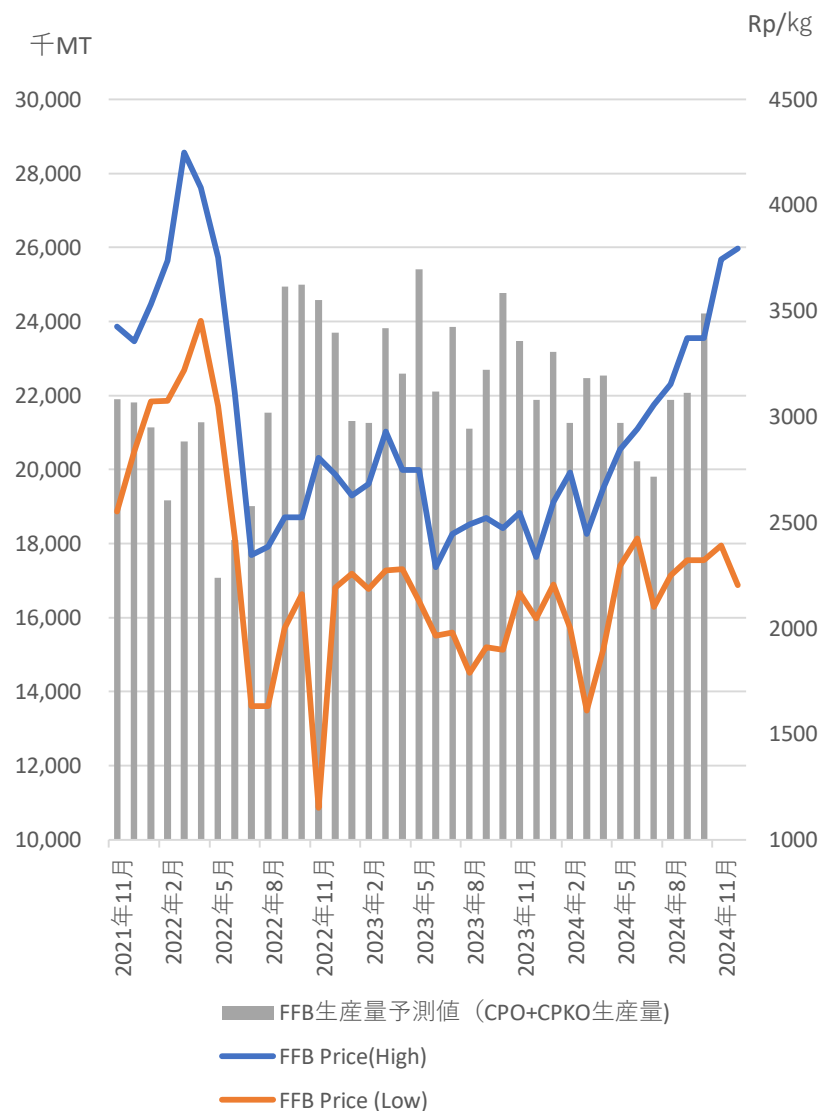
1. 実績

2024年12月のインドネシア国内22州での作付年齢10~20年の平均FFB価格は3,202Rp/kgであり、前月の11月より約5%価格が上昇している。12月中の最高価格は、西スマトラ州で3,794Rp/kg、最低価格は、バンテン州で、2,202Rp/kgであった。

2. FFB生産量予測

2025年のパーム油の生産量は、油ヤシの生産事業者の1つである、零細農家の老齢樹の割合が広範囲に及ぶため、単純な収穫量の減少や椰子の植え替え等により、CPOの生産が減少する可能性がある。

インドネシア国内のFFB価格(最大・最小)
パームオイル生産量から推定されるFFB生産量



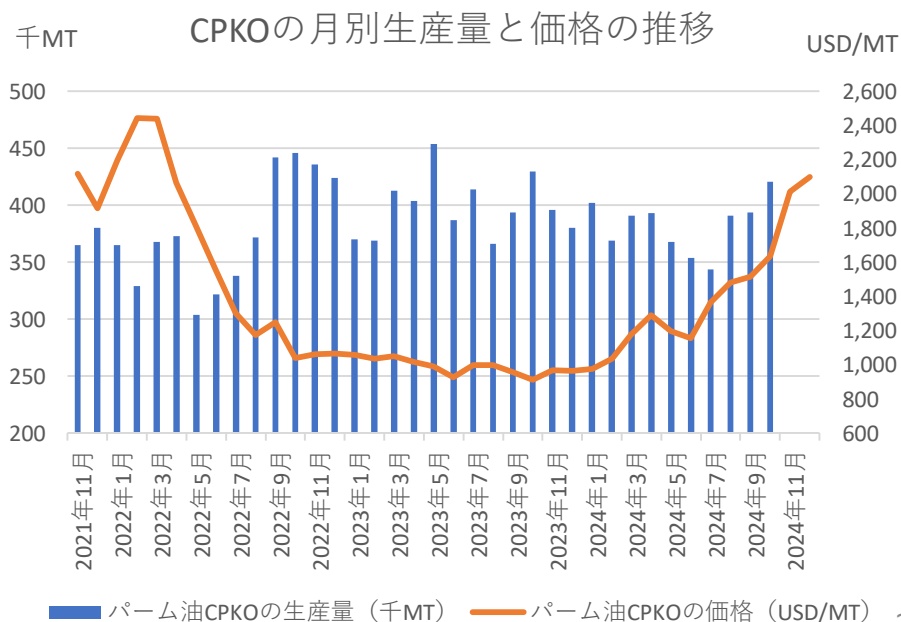
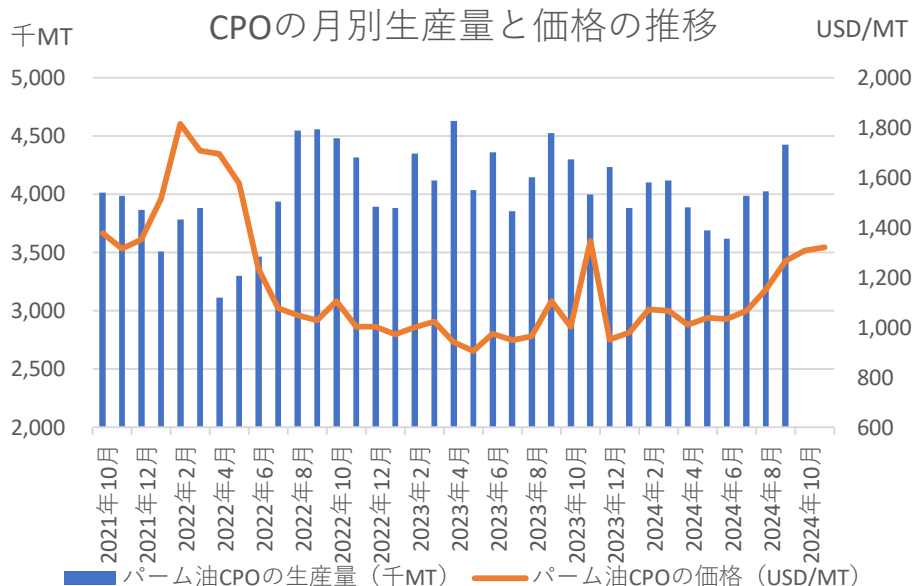
インドネシアのパーム油CPO及びCPKOの生産量及び価格見通し

1. 実績 (CPO)

CPO (CIFロッテルダム) の平均価格は2024年11月の1,308 USD/MTと比較して2024年12月は1,321 USD/MTとなり、13 USD/MT (前月比で約1%) 上昇した。また、2023年12月のCPO平均価格1,345 USD/MTと比較すると、24 USD/MT (前年比で約2%) 減少した。

2. 実績 (CPKO)

CPKO (CIFロッテルダム) の平均価格は2024年11月の2,015 USD/MTと比較して2024年12月は2,099 USD/MTとなり、84 USD/MT (前月比で約4%) 上昇した。また、2023年12月のCPO平均価格966 USD/MTと比較すると、1,133 USD/MT (前年比で約117%) 上昇した。



インドネシアからのPKSの輸出量及び輸出額見通し

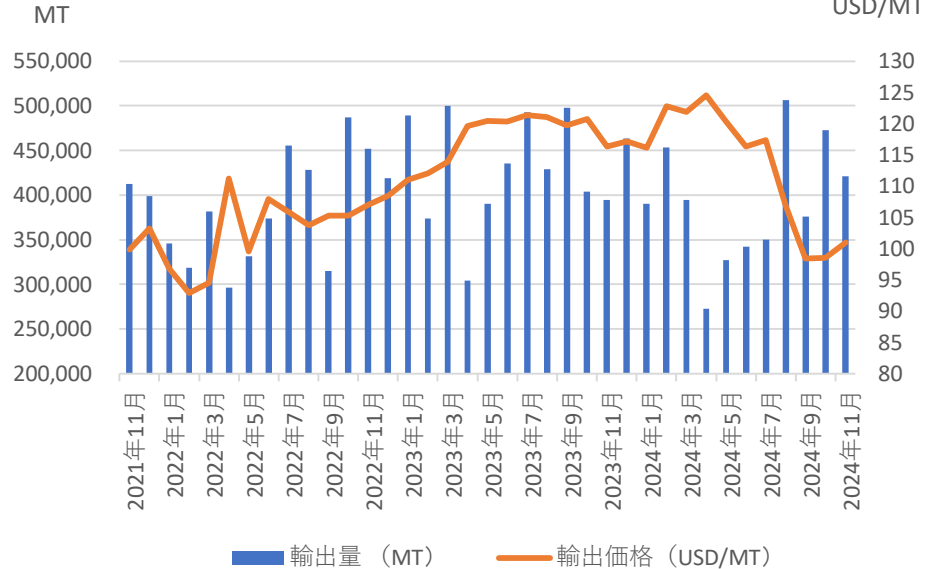
1. PKS輸出実績

2024年11月のインドネシアのPKS輸出量は、421,038トンとなり、10月の輸出量472,822トンと比較すると51,784トン（前月比で約11%）の減少となった。

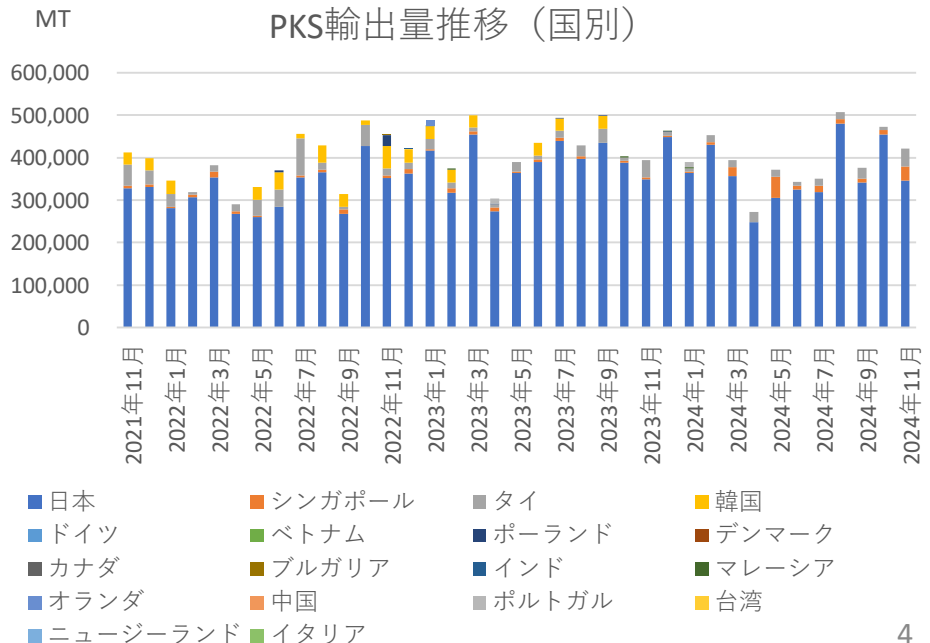
前年2023年11月のPKS輸出量394,275トンと比較すると、2024年11月の輸出量は26,763トン（前年比で約7%）増加した。2024年11月のPKS輸出額は42,526,336USDを記録した。

2024年11月最大の輸出先は日本であり、輸出量は346,429トン、外貨換算額は36,378,472 USDを記録した。（日本へのPKS輸出量は、インドネシア全体の輸出量の約82%を占める）日本への輸出量を10月の輸出量454,537トンと比較すると108,108トン（前月比で約24%）の減少となった。

PKS輸出量と輸出価格の推移



PKS輸出量推移 (国別)



インドネシアからのPKSの輸出量及び輸出額見通し

1. FFB価格、CPO価格の見通し

-12月中はインドネシア全域が雨期に入りFFBの生産が減少する見込みであり、FFB価格の下げ要因は見当たらず、上昇傾向にある。

-パーム生産国であるインドネシアがB40のバイオディーゼル(CPO:40%、軽油60%の混合燃料)の販売計画に伴い、CPOの輸出能力が減少する見込みとなっている、そのため、FFB、CPOの価格は引き続き、上昇の傾向が続くと見込まれる。

2. PKS価格の見通し

一度大きくPKSの輸出量が落ち、PKSの価格も落ちたが、輸出量は回復した後、再度減少した。また、12月のFFBとCPOの生産量が雨期の影響で減少する見込みである。そのため、今後のPKSの供給量が少ないと予想される今、PKSの需要が、PKS価格に与える影響が高いと思われる。

3. インドネシア国内の政策

パーム生産国であるインドネシアがB40のバイオディーゼル(CPO:40%、軽油60%の混合燃料)の販売計画に伴い、国内CPOの需要が高まっている。

また、B40の国内供給に関連して、CPOを国内B40の原料として確保するため、CPOの輸出制限措置が行われている。